



## 地域医療を育む会の発起人のひとり

# 阿形 操さん



**PROFILE** あがた みさお(64・大山)  
平成21年3月まで市立御前崎総合病院で事務部長として勤務。退職後、さまざまな地域活動に積極的に参加し、地域を支えている。

### 医療現場の現状を危惧

平成16年から始まった研修医の臨床研修制度により、地方よりも症例の多い大都会へ医師が流れてしまいました。その結果、御前崎市を含めた中東遠地域で医師不足が大きな問題となっています。

当時、市立病院に勤務していた阿形さんは、夜間救急からそのまま昼間の診察を行うなど、休む間もなく懸命に働く医師の姿を見て、精神的・肉体的にも限界があると感じていました。

退職後も医療関係者や地域のために何かできることはなにかと模索する毎日でした。そんなとき、近隣で地域医療に貢献する市民団体と知り合い、情報を共有していく中で、周りからの後押しもあり、同じ志を持つ14人を発起人として平成25年1月12日、「地域医療を育む会」が第一歩を踏み出しました。

### 地域との思いをつなぐ

育む会として自分たちでできることは何か考え、まずは現状を把握し、広く情報を共

有することから始めました。

「市民はより良い医療を受けたいと思い、医療関係者はより良い医療を提供したいと願っています。お互いの思いをつなぎ、市民と医療関係者が、より強い信頼関係を築けるようにサポートすることが、私たちの役割と考えます」

### 住みよい地域に向けて

「医師をすぐに増やすことは難しいが、市内にいる開業医を含めた全ての医療関係者そして地域住民が健康で安心して暮らせる医療の根付いたまちづくりのため、会員一人一人となつて活動していきたい」と熱い思いを語りました。

今後、市内だけでなく、広域的な活動が期待されます。



▲100人以上の会員が集まった設立総会。